



「声」の欄・投稿規定

★「声」の欄は読者の皆さんのお考えを、直接この雑誌に反映させるためのページです。皮膚病の診療に関する日ごろのご意見、新しいアイデア、ご提言などをお気軽にお寄せください。とくに日夜第一線で診療に活躍しておられる先生方からのご投稿を切望します。

★この欄にはまた皮膚病に関する“質疑応答”を取り上げます。お寄せいただいたご質問は、その方面の権威に依頼して適切な回答を用意し、誌上で発表いたします。とくに回答者を指名されても結構です。

★字数は一般のご投稿は1,200字以内、質問は600字以内を原則とします。

★ご投稿は郵送のほか、FAX（番号：03-3575-4748）とE-mail（アドレス：hifubyoh-shinryoh@kk-kyowa.co.jp）にても受け付けております。

★誌上での匿名は随意ですが、原稿には住所・氏名を明記していただきます。

ノルウェー疥癬の名称について

私は以前、ノルウェー疥癬の4例を高知市医師会医学雑誌で報告しました（高知市医誌 5：129, 2000）が、2014年に、15年ぶりにノルウェー疥癬を経験しましたので、日本皮膚科学会高知地方会で報告することになりました。

ところが、発表前にプログラムをご覧になった某先生から「現在、“ノルウェー疥癬”の名称は使わない。今は“角化型疥癬”の名称に変わっているとの親切なご指摘を受けました。私が学会で恥をかかないようにとのご配慮でした。

そこでノルウェー疥癬の歴史について調べてみると、ノルウェー疥癬は、1848年、ノルウェーのDanielssenとBoeckがノルウェー国内で発見し報告したのが最初でした。1852年、オーストリアの皮膚科医Hebraは、この疾患をノルウェーの名誉のためにノルウェー疥癬と命名しました。その後、100年以上、ノルウェー疥癬の名称は全世界で使用されています。ところが近年、ノルウェーの学者から負のイメージの強いこの名称を使うことに反対が出るようになり、1950年、Calnanはcrusted scabies（痂皮型疥癬）との名称を推奨しました。

日本においても、いつごろかは不明ですが、名称が変更されたようで、医学中央雑誌で最近の本症報告を調べてみると、大部分が角化型疥癬で、少数が痂皮型疥癬です。ノルウェー疥癬の名称はほとんどみられません。それでは欧米ではどうか

と、PubMedを検索してみると、ノルウェー疥癬の名称を用いているタイトルが大部分を占め、次いで痂皮型疥癬で、角化型疥癬はほとんどありません。日本とは逆なのです。

日本で角化型疥癬の名称が用いられている理由について、大滝倫子先生は、crustの意味の誤訳によるとしています。つまり、crustを“痂皮”、“かさぶた”と訳したのが誤りで、crustは、“バンの耳など堅い皮”の意味だといえます。ノルウェー疥癬の本質は角質増殖であるので角化型疥癬の名称でよいとされています。しかし、欧米の文献では、上述したように、角化型疥癬の使用はきわめて少なく、それどころか、ノルウェー疥癬の呼称はいまだに多くみられます。欧米がノルウェー疥癬の名称を現在も多く使用しているのに対し、日本では、角化型疥癬の名称に変更しています。しかも痂皮型疥癬という名称はあまり使われていません。

最初の発見地を名称にするのがよくないのなら、エボラ出血熱、日本脳炎、日本紅斑熱、ノロウイルス感染症などの名称も適当ではないことになります。今も欧米でもっとも多く使用されており、日本においても広くコメディカルの方々にもなじみ深い、インパクトのあるノルウェー疥癬の名称を、今しばらく使ってはいかかと思っています。

猿田隆夫

高知市・猿田皮膚科



【コメント1】

Hansen病の泰斗である犀川一夫先生からいただいたノルウェー出身のDanielssenとBoeck著の『Atlas de la Lèpre』(1847年刊, 1946年復刻版)の第24図には、ヒゼンダニと角化型疥癬が示されています。この所見が「ノルウェー疥癬」の報告につながったのではないのでしょうか。

14世紀後半, 西ヨーロッパのHansen病は消滅していましたが, ノルウェーでは17~18世紀に逆に蔓延しました。その理由の1つとしてノルウェー国内の貧しさとの関係が深く, Hansen病のみならず疥癬も流行していたようです。

疥癬の病型分類については臨床症状から一般的にみられる疥癬(通常疥癬: classical scabies)と, 角化型疥癬(hyperkeratotic scabies(痂皮型疥癬: crusted scabiesと蛎殻様疥癬も同義語))の2つに大別されます。今回テーマになっているのは角化型疥癬で, ノルウェー疥癬(Norwegian scabies)とも表現されます。この表現は猿田先生あるいは前述したごとく最初にノルウェーの学者によって報告されたことにちなみですが, 最近では差別的表現と考えられることもあるため, 2015年に開示予定の「疥癬診療ガイドライン」でも採用されていません。

「癩」が「Hansen病」に病名変更された経緯を略記します。病気で一番苦しんでいるのは患者なので, 患者(および家族など)が「病名」ゆえに大きな負担(心理的, 精神的, 社会的など)を強いられることは避けるべきだと考えます。「らい」のもつ暗い, 偏見・差別を助長し, さらに本人のみならず家族までも心理的・社会的に追い詰められることは避けるべきです。そのため「らい」が「Hansen病」, この場合は1873年にらい菌の発見者Hansen先生(ノルウェー人)の名前が使われました。Hansen先生の義父は前述したDanielssen先生です。病名変更は1996年の「らい予防法」が廃止されたときで, 医療関係, 法曹界, マスコミ, 市民など, すべてのコンセンサスでした。病者中心が貫かれています。世界的にはHansen病を使用する傾向にあるものの, Hansen病(Hansen's disease)とLeprosy

を並列, Leprosyのみを使うなど, 皮膚科の教科書, 論文, 国, WHOなどでも差があります。しかし私は病名によるネガティブイメージは避けるべきで, 「Hansen病(Hansen's disease)」に統一されるべく世界で努力すべきだと考えます。

地名の付いた病名, 人名の付いた病名を一律に良い, 悪いと判断することはむずかしいことと思いますし, 疾患ごとに病名の歴史, 患者の心情, 社会的要請などを勘案してそのままにするか, 変えていくかと判断するのがよいと思います。その場合, 医療関係のみでなく社会の多くの声を聞きたいものです。

「ノルウェー疥癬」については欧米ではまだ使用されているものの, ノルウェーに多い病型のイメージを浮かべる方もいるので日本では使われない方向になっているのかもしれませんが, 日本では使用しない方向性でよいと考えます。世界的に使用されているから使ってよいという意見には賛同しかねます。その病名から想起されるイメージも大切かと思います。

石井則久

国立感染症研究所ハンセン病研究センター

【コメント2】

当院顧問の大滝倫子医師によると, 出所は不明ですが, ノルウェーの学者がノルウェー疥癬の名称を使わないでほしいという趣旨の発言をされたようです。ご質問をいただき, ノルウェー大使館にお尋ねしてみました。複数のノルウェー人の聞き取り調査では, まず一般のノルウェー人は疥癬の重症例に「ノルウェー」という言葉がつけられていることを知らず, また知ったとしてもとくに否定的な感情をもつことはないとのことでした。ただ, ノルウェーに多い病気だという誤解は招きやすいかもしれないという感想がありました。大使館のお勧めでOslo University Hospitalにメールで質問しましたが, 残念ながら回答はいただけませんでした。ノルウェーの学者の意見, ノルウェーに多いという誤解の懸念より, 多少捨てがたいですが, ノルウェー疥癬の名称は使わないほうがよ

いと思います。

ノルウェー疥癬の名称に関しては、前回の「疥癬診療ガイドライン 第2版」(2007年)作成の際にも問題になり、ガイドライン策定委員会で話し合われた結果、角化型疥癬に統一することになりました(2015年発表予定の第3版も同様です)。痂皮は血液や滲出液が凝固してできるものですが、重症型疥癬の場合は角化、鱗屑が特徴的ですので、痂皮型より角化型がふさわしいと思います。英語の「crusted」は日本語の痂皮型よりも角化型に近いのではないのでしょうか。

病態に即した「角化型疥癬」という名称を使うことで、角化部位に注目するようになり、限局性の角化型疥癬も見逃さないようになればと思います。

谷口裕子

東京都千代田区・九段坂病院皮膚科

【コメント3】

猿田先生ご指摘のように、「ノルウェー疥癬」という名称は今でも使う人が多いですし、馴染み深くて使いやすい病名だと思います。とくに、看護師さんの間では「ノルウェー疥癬」が完全に定着していますし、私自身、「カッカガタ(角化型)」と言おうとすると舌を噛みそうになるので、つい「ノルウェー」と言いたくなります。

ただ、疾患の名称として適切か、という話が違ってきます。国や地域名を冠した疾患名は多いのですが、例外はあるにせよ、基本的には風土病的な要素が強いと思われます。しかしノルウェー疥癬の場合は決してノルウェーに多いわけではなく、あくまで「重症型」を表現した病名です。これはしばしば混乱を招きます。立場上、学生に疥癬の講義をしています。正しく解説したつもりでも、○×式の試験問題で「ノルウェー疥癬はノルウェーで発見された薬剤抵抗性ヒゼンダニの感染によって生じる」などという引っ掛け問題を作成すると、必ず引っかかって「○」を付ける学生が少なからずいます。つまり、本来はノルウェーの学者に敬意を表して付けられた名称であっても、広く用いられるうちにその意図は消え去り、誤解を

生む可能性のほうが大きくなるように思います。逆の立場で、もし日本人の学者がこの重症型疥癬を初めて発見して報告したとして、「日本疥癬」とか「日本型疥癬」と呼ばれてしまうと、名誉と感じるよりも、受け入れがたいとを感じるのではないのでしょうか。

したがって、長年親しんだ(?)病名ではありますが、「ノルウェー疥癬」はあまり使わないほうがよいように思います。なお、日本語の病名として角化型疥癬と痂皮型疥癬のいずれが適切であるのか、については大滝先生のご指摘の通りだと思います。「crust」は「堅い皮に覆われた」という意味ですので、本来は「痂皮型」ではなく、「角化型」のほうが適切であろうと思います。ただ、英文論文では「keratotic scabies」ではなく圧倒的に「crusted scabies」が用いられているようですので、「角化型」という表現と合致しない点が少し気になります。

昆虫の世界でも、種名の付け方には多くの議論があって混乱が絶えないのですが、医学の世界でも「日本語にならない(しにくい)病名」が多いことも合わせて、疾患名を適切に表現するのは案外、むずかしいようです。

夏秋 優

兵庫医科大学皮膚科学

【コメント4】

ノルウェー疥癬という用語を使ってよいかというご質問です。私が1993年に入局した当時、ノルウェー疥癬という名称で教わりました。角化型疥癬という名称を聞いたのは、「疥癬診療ガイドライン 第1版」の作成にかかわったときです。そのとき疥癬診療ガイドライン策定委員の方から、ノルウェー疥癬という名称はノルウェー人に対する差別用語なので使わないほうがよいとご指摘がありました。ガイドライン策定委員会の中で、角化型疥癬という名称がふさわしいと決まった記憶があります。

地名が差別用語にあたるのか、私にはわかりません。猿田先生の言われるように地名が病名に



なった例は、ほかにもライム病など多数あります。かつてヨーロッパでは病気を他国の名前でやっていた時期があります。梅毒を、フランスではナポリ病、イタリアではフランス病と呼んでいたようにです。けれども発見者の出身にちなんで名前をつけるのは名誉のことにも思えます。講演の際には、ノルウェー疥癬と角化型疥癬の両方を紹介しています。

Hebraの原本が手元にあるので、少し引用します。1848年のDanielssen, Boeckの報告は、臨床症状の記載のみでした。1851年4月Boeckは、クリスチャニア(オスロの旧称)の病院で2例目を経験します。手足に厚い痂皮が生じた女性の患者です。これら2例とも顕微鏡検査は行われていませんでした。1851年、Boeckはクリスチャニアで3例目を経験し、このときに顕微鏡検査で痂皮から多数の死んだ虫体を見出します。1852年Hebraがノルウェーに滞在中、Boeckの記載の正確さを認識し、論文を出しました。病名を、Scabies Norvegica Boeckii(Scabies crustosa, Borkenkrätze)と名づけました。Hebraは当初、ノルウェー疥癬と通常型疥癬の原因となるダニは違うと考えていました。しかし、ノルウェー以外の国からも同様の症例が見つかるようになったこと、ノルウェー疥癬でも注意深く観察すると疥癬トンネルがどこかにみつかることから、原因となるダニは同じものと結論

づけます。

Calnanがcrusted scabiesを推奨したのは1950年で、今から60年以上も前のことです。一番の答えは、現在、ノルウェーの皮膚科医がどう思っているかによると思います。

2015年1月10日にノルウェーのオスロ大学病院皮膚科に問い合わせしてみました。ノルウェー人はノルウェー疥癬という病名を嫌っていないか、別の呼称がよいのかについてです。翌日オスロ大学病院Holm教授から以下の返事をいただきました。

「ご質問ありがとうございます！ ノルウェー疥癬(Scabies Norvegica)は、地理的にノルウェーの地図上に限られていないことは知っておりますが、それでも実際には、われわれの病院ではScabies NorvegicaとCrusted Scabiesのどちらの用語も使っています。この疾患がやっかいでも、私たちは自分の用語にたぶん誇りがあるのでしょうかね」。

オスロ大学病院では、ノルウェー疥癬という言葉は今も使い、誇りに思っているとのこと。発見者に敬意をこめてノルウェー疥癬と呼んでもよいのではないのでしょうか。猿田先生のご意見に賛成です。

和田康夫

赤穂市民病院皮膚科

※コメント掲載順は先生方のご氏名の五十音順。